

子供と家族・若者応援団活動事例紹介事業 (チャイルド・ユースサポート章) 受章者

【子供・若者育成支援部門】

【子育て・家族支援部門】

チャイルド・ユースサポート章

朝野 歳一 (北海道推薦)	…1頁
特定非営利活動法人 岩泉地域活動推進センター (岩手県推薦)	…1頁
京都教育大学帰国渡日児童生徒つながる会 (京都市推薦)	…1頁
久里浜商店会協同組合 (神奈川県推薦)	…1頁
小玉川青年団イチコロ (山形県推薦)	…2頁
特定非営利活動法人 ネットポリス鹿児島 (鹿児島県推薦)	…2頁
Projeto Construir ARTEL (堺市推薦)	…2頁
学校法人文理学園 日本文理大学 人間力育成センター (大分県推薦)	…2頁
八尾地区BBS会 (法務省推薦)	…3頁
特定非営利活動法人レアリスルスポーツクラブ (青森県推薦)	…3頁
合計10件	

おおいたパパくらぶ (大分県推薦)	…4頁
家庭教育支援チーム「こもんず」 (文部科学省推薦)	…4頁
設楽町出会いイベント実行委員会 (愛知県推薦)	…4頁
社会福祉法人つわぶき会 (和歌山県推薦)	…5頁
USOM (宇部・山陽小野田・美祢地区) 地域コーディネーター一連絡会議 (山口県推薦)	…5頁
合計5件	

チャイルドユース・サポート章（10件）

あさの としかず
朝野 歳一
 （北海道旭川市）
 北海道推薦

同氏は、少年の健全育成活動の一環である少年の居場所づくり事業の「農業体験」において、自宅の農地及び農機具等を無償で提供し、参加少年に対する農業指導を続けてきたもので、子供たちの体験活動の機会を提供することにより、少年の心と体の健やかな成長への支援に尽力したものである。



「農業体験指導」の様子



いわいずみ
特定非営利活動法人 岩泉地域活動推進センター
 （岩手県下閉伊郡岩泉町）
 岩手県推薦

同法人は「学校、学年を越えた仲間と地域資源を生かした体験活動を行い、ふるさとを理解し、愛する心を育てながら、相互の連帯感を養う。」ことを目的に、岩泉町の財産である自然を最大限に有効利用した活動、川下り、ツリークライミング、キャンプなどの季節を感じる活動をとおして、長年にわたりふるさと少年隊活動を行ってきた。



川下りの様子

きこくとにち
京都教育大学帰国渡日児童生徒つながる会
 （京都府京都市）
 京都市推薦

同団体は、海外からの移住や帰国、国際結婚家族の子供たちに学習支援や交流活動を行い、外国にルーツをもつ子供たちが抱える悩みに寄り添う支援をしてきた。仲間づくりを通して、自分に自信が持てることを目指している。他団体との連携や課題の発信にも積極的に取り組んでいる。大学生のメンバーの多くは卒業後は教員となり、学校での人権教育や外国人教育の担い手となっている。



「学習支援」の様子

くりはま
久里浜商店会協同組合
 （神奈川県横須賀市）
 神奈川県推薦

同組合は、地域内にいる6校の小中学校の職業体験の場として、商店街でのインターンシップの受け入れを行っている。「子供達の明るく大きな声に、元気をもらい野菜・お魚・パン等購入しました」など、地域の評判もよく、地域の活性化にも役立っている。



「職業体験」の様子



子供と家族・若者応援団表彰【子供・若者育成支援部門】受賞者概要

こたまがわ
小玉川青年団イチココ
(山形県西置賜郡小国町)
山形県推薦

同団体は、地域の小中学校が閉校したことを受けて開催された同窓会を契機に、地区の若者が集まって話をする機会が増え、その中で小玉川地区の特性である雪を活かして楽しむイベントの企画が持ち上がり、その実施主体として誕生した。

「雪」を資源として活用した取り組みである「雪の中の大冒険」が地域活性化に大きく寄与している。



メンバー



「巨大迷路」の様子

特定非営利活動法人
ネットポリス鹿児島
(鹿児島県鹿児島市)
鹿児島県推薦

同法人は、団体設立以来、サイバー犯罪やネットいじめに関する青少年や保護者等からの相談受付、調査、ネットパトロールなどの取り組みを継続している。

現在では、ライン等のSNSを活用した青少年の相談・支援をはじめとして、学校を中心に年間250回を超える情報モラル教室や保護者・教員向けの講話、さらに指導者養成研修を開催するなど、鹿児島県のネット社会における青少年健全育成の中心的な存在である。



中学校における講演の様子

プロジェクト コンストルイル
アルテル

Projeto Construir
ARTEL
(大阪府堺市)
堺市推薦

同団体は、ブラジルにルーツを持つ子供たちに日本語と継承語(母語)の学習を行い、子供たちに母国文化の継承とアイデンティティの形成を促して、子供たち自身が持っている力を十分発揮できるように支援している。また、地域の祭りやイベントに出店・企画し、ブラジルの伝統食などを提供して、市民の国際理解などの増進にも貢献している。



「堺まつり」への参加の様子

学校法人文理学園
日本文理大学
人間力育成センター
(大分県大分市)
大分県推薦

同センターは、大学生に主体的に社会貢献活動に参加する“地域プログラム”や被災地への災害ボランティア活動等の「学びの場」を提供している。10年間で9千名以上の学生が活動に参加しており、多くの若者の、これらの活動を通じた人間力の育成に貢献している。地域プログラムでは、「中山間地域、小規模集落の活性化」、「中心市街地の活性化」等の地域課題に、地域住民と連携を図りながら取り組んでおり、地域の活性化や地域住民の意識高揚にも繋がっている。



災害復旧活動の様子

子供と家族・若者応援団表彰【子供・若者育成支援部門】受賞者概要

やお
八尾地区BBS会
(大阪府八尾市)
法務省推薦

同団体は、非行少年や不登校の子供たちに対してボクシングを取り入れたグループワークによる自己形成支援と居場所支援を行っている。

また、子供たちによる地域の清掃活動や地域で実施されているこども食堂に対する支援も行っている。



ボクシングの練習の様子



こども食堂の様子

特定非営利活動法人
シェアリスportsクラブ
(青森県青森市)
青森県推薦


同法人は、サッカーを通じた居場所作りと余暇活動の充実に取り組み、障害児・者が豊かな社会生活を送る上で欠かせない楽しみの場を提供し続けている。また誰でも気軽に参加できるサッカー教室やサッカー大会を開催し、スポーツが得意な方だけでなく、苦手としている方も楽しめる環境づくりに取り組んでいる。その結果、当初スポーツに対して興味が無かったり、集団での活動になじめなかった障害児・者が、笑顔でスポーツに取り組めるようになった他、障害の特性に合わせた関わりを継続的に行ったことで、社会性の獲得やコミュニケーション能力の向上が見られるようになった。



サッカー大会の様子



親子運動会の様子

 **チャイルドユースサポート章（5件）**

**おおいたパパくらぶ
（大分県大分市）大分県推薦**

大分県の実施した男性の子育て講座から自発的に発生した「パパ」による育児サークルである。男性の育児サークルとして、各種ボランティア活動（こどもルームでの絵本の読み聞かせ活動や子育てイベントへの協力）だけでなく、地域での講演活動や子育てコミュニティ形成の支援も行っており、近年見られるようになったパパサークルの先駆的役割を果たしている。月1回の定例会を開催するなどパパ同士のつながりを大切に、会員の中で無理をせず、7年以上にわたり活動を行っている。また、県内フリーペーパーでパパくらぶの活動や男性の育児参加についてのコラムである「パパくらぶ通信」を5年以上掲載しており、利用者・参加者からの評価や要望も高い。



「ブレパパ・ブレママ
スクール」

「絵本の読み聞かせ活動」

**家庭教育支援チーム「こもんず」
（千葉県千葉市）文部科学省推薦**

家庭教育支援チーム「こもんず」は、子育てサポーター、臨床心理士、保育士、PTA関係者、民生・児童委員等、多様な地域人材で構成されている。構成員の中に専門家がいるため、家庭からの相談に専門的見地から対応することが可能である。また、学校・青少年育成委員会等、多くの関係機関と連携して設置している「地域協力者会議」は、「こもんず」の活動開始時から毎年2回開催され続けており、「こもんず」はその中心的な役割を担っている。「地域における家庭教育基盤形成」を自分たちの地域の課題であると位置づけ、子育てに関して学びあう機会を積極的に設け、子育て中の保護者の不安解消や課題解決に大きく寄与している。



「子育て親育ち講座」

「地域協力者会議」

したらちよう
**設楽町出会いイベント実行委員会
（愛知県北設楽郡設楽町）
愛知県推薦**

同会では「出会いイベント」を開催している。現在までに「出会いイベント」で7組が結婚し、3子が出生するなど、地域の活性化に貢献している。「出会いイベント」は、設楽町の魅力を感じてもらい、町への定住につながるよう町内で開催、地元の自然資源を大いに生かし、地元で捕れたジビエ肉を使用したBBQや星空観賞、ホテル観賞、魚の捌き取り、野菜の収穫体験、五平餅づくりなど、他の地域では体験できない独自の内容で実施している。多くの参加者を募るため、新聞や雑誌、愛知県が運営する結婚支援のポータルサイトにイベント情報を掲載するなどイベントの周知を行い、女性は愛知県尾張地方や県外からの参加も多くなっている。



「魚の捌き取り体験」

「野菜収穫体験」

子供と家族・若者応援団表彰【子育て家族支援部門】受賞者概要

社会福祉法人つわぶき会 (和歌山県和歌山市) 和歌山県推薦

障害者の方々に対し、24時間365日切れ目のない一貫した支援を行う入所施設、自宅やグループホームから通いながら生活支援や就労支援を行う生活介護施設、日中一時支援施設、就労支援の運営を行っている。日本一女性に優しい職場づくりを目指し、職員が中心となり「働きやすい職場づくり委員会」を月1回開催し、就業規則の見直しや、制度を気軽に利用できる職員間のコミュニケーションを優先した職場づくりを提案している。県内企業・団体での、働き方の見直しや仕事と家庭の両立ができるより良い職場環境づくりの取組を広めるため、県が設定した意見や情報交換をする場において、模範の取組として県内の他の企業・団体から評価を得ている



委員会主催の
「職員ボウリング大会」

職場での
子供の一時預かり

ユースAM USOM (宇部・山陽小野田・美祢地区) 地域コーディネーター連絡会議 (山口県宇部市) 山口県推薦

山口県の子育て県民運動の一環として地域コーディネーターが養成され、宇部・山陽小野田・美祢地区の連絡会議を「USOM」とし、中高生を対象に乳幼児とふれあうことや、子どもの社会参画の機会を広める子育て支援のネットワークづくりの活動を行っている。若い世代が赤ちゃんやその家族と触れ合う機会が少なくなっていることにいち早く着目し、「中高生と乳幼児のふれあい体験事業」を実施。乳幼児とふれあう託児実践を通して、中高生に「いのち」の尊さ及びその原点である家族や地域のきずなの大切さを学んでもらい、将来家族や子どもを持つことの楽しさや素晴らしさを感じる機会をつくっている。

この取り組みも参考の一つとし、現在では山口県内の複数の中学校・高等学校において、乳幼児と定期的にふれあう「学校内子育てひろば」創設の動きが出ており、県内他市町・他団体のモデルとなっている。



「中高生と乳幼児のふれあい体験」



永田クラブ、経済研究会へ資料配布

【扱い】

受賞者等に関する報道について

平成30年11月21日（水）12時10分以降解禁
（※新聞は11月21日（火）夕刊から解禁）

平成30年11月14日
内閣府政策統括官
（共生社会政策担当）
内閣府子ども・子育て本部
（少子化対策担当）

**平成30年度「子供と家族・若者応援団表彰」、
「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」等について**

平成30年度「子供と家族・若者応援団表彰」、「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」につきまして、別紙のとおり受賞者を決定し、下記のとおり表彰式を開催します。

また、「子供と家族・若者応援団活動事例紹介事業（チャイルド・ユースサポート章）」として、広く社会に紹介する対象とする事例を決定しましたので、併せて、お知らせします。

記

1. 「子供と家族・若者応援団表彰」、「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」表彰式

(1) 日 時：平成30年11月21日（水） 12：10～13：30

(2) 場 所：中央合同庁舎8号館内閣府講堂（1階）
（東京都千代田区永田町1-6-1）

(3) 次 第（概略）

表彰状授与（宮腰内閣府特命担当大臣）

内閣総理大臣表彰

内閣府特命担当大臣表彰

表彰者からの挨拶

※終了後、記念撮影を行います。

2. 取 材

- ・記念撮影を除いて取材可能です。（カメラ撮りを含む。）
- ・当日は、11：10から11：55までの間で受付を行いますので、記者証又は自社腕章を着用の上、内閣府講堂受付に集合してください。
- ・宮腰内閣府特命担当大臣の出席については、公務等により変更となる可能性があります。

3. 受賞者概要（別添のとおり）

【問合せ先】

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

参事官補佐 鈴木

TEL:03-6257-1441

内閣府子ども・子育て本部（少子化対策担当）

政策企画調査官 鈴木

TEL03-6257-3090

子供と家族・若者応援団表彰

1. 表彰制度の概要

(1) 目的

子供・若者を育成支援する活動及び子育てと子育てを担う家族を支援する活動において顕著な功績があった企業、団体又は個人を顕彰し、もって、子供・若者の健やかな成長に資すること。

(2) 対象

次の活動に取り組み、極めて顕著な又は特に顕著な功績のあった企業、団体又は個人

- ① 子供・若者を育成支援する活動
- ② 子育てと子育てを担う家族を支援する活動

(3) 選考

関係府省、各都道府県等から推薦のあった候補者の中から、選考委員会（委員長：明石要一 千葉敬愛大学短期大学学長）での審査を踏まえ決定。

① 内閣総理大臣表彰

極めて顕著な功績があったと認められる者

② 内閣府特命担当大臣表彰

(ア) 子供・若者育成支援部門

子供・若者を育成支援する活動で特に顕著な功績があったと認められる者

(イ) 子育て・家族支援部門

子育てと子育てを担う家族を支援する活動で特に顕著な功績があったと認められる者

2. 受賞者数

- (1) 内閣総理大臣表彰 4件
 - ① 子供・若者育成支援部門 (3件)
 - ② 子育て・家族支援部門 (1件)
- (2) 内閣府特命担当大臣表彰 16件
 - ① 子供・若者育成支援部門 (10件)
 - ② 子育て・家族支援部門 (6件)

未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー

1. 表彰制度の概要

(1) 目的

子供や若者が、地域や社会の輝く未来に向けて行った社会貢献活動において、顕著な功績があった個人又は団体を顕彰し、もって、子供・若者の健やかな成長に資すること。

(2) 対象

社会貢献活動に取り組み、極めて顕著な又は特に顕著な功績のあった個人又は団体

(3) 選考

関係府省、各都道府県等から推薦のあった候補者の中から、選考委員会（委員長：山本信也 一般財団法人日本青年館常務理事）での審査を踏まえ決定。

① 内閣総理大臣表彰

極めて顕著な功績があったと認められる者

② 内閣府特命担当大臣表彰

特に顕著な功績があったと認められる者

2. 受賞者数

- (1) 内閣総理大臣表彰 2件
- (2) 内閣府特命担当大臣表彰 11件

子供と家族・若者応援団活動事例紹介事業（チャイルド・ユースサポート章）

※チャイルド・ユースサポート章の表彰式は行いません。

1. 事例紹介事業の概要

(1) 目的

子供・若者を育成支援する活動及び子育てと子育てを担う家族を支援する活動を広く社会に紹介することにより、同様の活動を行っている方々やこれから行おうとする方々の参考に供すること。

(2) 対象

- ① 子供・若者を育成支援する活動
- ② 子育てと子育てを担う家族を支援する活動

(3) 選考

関係府省、各都道府県等から「子供と家族・若者応援団表彰」に推薦のあった候補者の中から、選考委員会（委員長：明石要一千葉敬愛大学短期大学学長）での審査を踏まえ決定。

2. 受章者数

- (1) 子供・若者を育成支援する活動 10件
- (2) 子育てと子育てを担う家族を支援する活動 5件

3. 紹介の方法等

(1) 内閣府ホームページへの掲載（平成31年2月掲載予定）

<http://www.cao.go.jp/>

(2) 書状・盾の交付

紹介の対象となった者に対し、「チャイルド・ユースサポート章」を章する書状を交付するとともに記念の盾を授与します。